

学校便り上美生

第1号



「コケ植物の生き方」

芽室町立上美生小学校
校長 松井 眞 治

どっさり積もっていた冷たい雪もすっかり姿を消し、エゾヤマザクラの蕾も少しずつ膨らむ頃となり、上美生の地にもようやく山笑う春がやってきました。

本校では、去る4月9日(木)に始業式と入学式を行いました。始業式では、何事も自分で考え、自分から取り組めるようになって欲しいこと。そして、今年も「ふむふむ名人・よくよく名人・きらきら名人」を目指し、しっかり話が聞けて、じっくり考えて、美しく行動できるようになって欲しいこと。等を伝えました。入学式では、6名の新入生に、学校は楽しく勉強するところであること。そのために、しっかりご飯を食べて丈夫な身体をつくって欲しいこと。交通安全等に気をつけて、毎日、笑顔で登校して欲しいこと。等を伝えました。教職員には、新学習指導要領の完全実施を受け、「子どもの主体性を見取り伸ばし、やる気を引き出し高める教育」を教育理念に抱え、子どもたち一人一人の6年間を俯瞰し、それぞれの未来に責任をもった教育活動の充実に努めて欲しいこと。等を伝えました。

なのに・・・新型コロナウイルス感染拡大収束の出口はなかなか見えず、わずか一週間ほど登校して、またまた全道一斉の臨時休校になってしまいました。新入生は、緊張の中、少しずつ学校に慣れ始めていたときでした。2～6年生は、新しい担任の先生のもと、生活面では新しい学級目標や学級組織なども決まり、いよいよ

動き出そうとしているときでした。学習面では、前学年での未習部分の確認がほぼ終わり、いよいよ新しい学年の学習内容に入ろうとしていたときでした。

「仕方ない・・・こんな時、私たちはよくこう口にします。この言葉、辞書では「やむを得ないこと。どうすることもできないこと。」と書かれていましたが、その概念を調べてみると、「どんな苦しい状況の中でも、現状を受け入れつつ、くじけることなく希望を見出そうとし続けること。」という意識が働いているとのことでした。実際、子どもたちにも、想定外の長期春休み中、「仕方ないから勉強するか。」「仕方ないからお手伝いでもするか。」「仕方ないから自主トレでもするか。」等々、この現状を打破しようとする主体的行動が見られました。

これは、グラウンド等の砂地に自生するエゾスナゴケの生き方にも似ています。根を持たないこのコケは、生きるために必要な水分や養分を植物体の表面から吸収しています。ですから日照りになるとすぐに乾燥して休眠状態になり、次の雨をじっと待ちます。雨が降らなくても、夜露程度で急速によみがえり、明け方の僅かな光で光合成をし、力強く生きているのです。

「春の来ない冬は無い」といいます。共に堪え忍び、この難局を乗り越えていきましょう。

5月の 行事予定

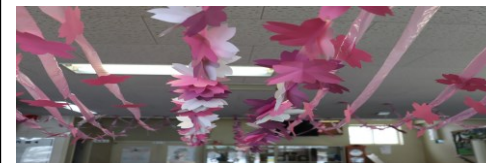
- 学校教育目標
- よく学び、よく考える子ども
 - なかよくし、助け合う子ども
 - 進んで取り組み、やりぬく子ども
 - いつも明るく元気な子ども



- 13日(火) 避難訓練(火災)
- 14日(木) 尿検査1
交通安全教室
- 15日(金) まるごと給食
集団下校訓練



- 16日(土) PTA環境整備(予定)
 - 21日(木) 児童会2
 - 28日(木) 児童会3
- ※今後、新型コロナウイルス感染防止のため、延期・中止の可能性あります。



- 【6月の主な行事予定】
- 4日(木) 児童会4
内科検診(延期)
 - 5日(金) まるごと給食
 - 11日(木) 児童会5 尿検査2
 - 16日(火) 心臓健診(1年)(延期)
 - 23日(火) 歯科検診(延期)
 - 24日(水) 遠足(実施予定) 尿検査3

今後も安全第一！！

今後、学校が再開しましても継続して、新型コロナウイルス感染防止のために、努めていきたいと考えております。

また、出歩く時はマスクの着用、帰宅後は手洗いの徹底、人が密集する場所の出入りは極力避ける、など保護者のご理解とご協力を得ながら、子どもたちが安心して生活できる環境を作っていきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。

編集後記 教頭

今年度からお世話になることになりました教頭の喜多 徹と申します。前任校は音更町立昭和小学校でした。上美生とは本当にご縁がありまして、祖父母(木原)が、生前、住んでおり大変お世話になりました。私も10数年前に上美生中学校の教師として、6年間、家族共々お世話になりました。何かふるさとに戻ってきたようなそんな気がします。どうぞよろしくお祈りいたします。

